

飛躍せよ、若手研究者！

高知大学の研究顕彰制度

高知大学では、研究者に対するサポート体制を整備。一層の飛躍を期待して、優れた研究者を表彰しています。

学内の全分野から優れた研究者を公募して表彰

●小槻 高知大学では、優れた研究を行った若手研究者を表彰する「若手教員研究優秀賞」「大学院生研究奨励賞」と「研究功績者賞」

の研究顕彰制度を設けています。受賞によって研究意欲の高揚を図り、研究の活性化と一層の発展を目指すのが目的です。

平成24年度の研究奨励賞を受賞された石田わかさん、おめでとうございます。研究の内容を紹介していただけませんか。



●石田 ありがとうございます。奨励賞はぶどう膜炎に関する研究で受賞しました。ぶどう膜とは、眼球を包み込むように広がる虹彩などの膜のことです。ぶどう膜炎は炎症が起こると飛蚊症や網膜剥離などの症状を伴い、ひどい場合は失明に至ります。炎症は細菌などの感染のほか、「自己免疫応答」といって自分の体を攻撃する反応によって起こることがあります。今回評価していただいた研究は、疾患モデルマウスを用いた研究で、自己免疫応答が関与するぶどう膜炎の発症機序の解明をテーマにしたものです。



マウス飼育室。疾患や用途に合わせて様々な種類のマウスを飼育・繁殖している



実験用の BALB/c マウス



フローサイトメトリーでの解析

●小槻 「大学院生研究奨励賞」は平成17年に設けました。学内の全分野から公募し、厳正な審査を経て、最終的に2、3名を選びます。石田さんが応募された動機は何でしょうか？

●石田 研究室でどのような研究をしているのか、広く知っていたきたい、というのが一番の目的でした。学内に貼られているポスターを見て、「これに出してみたいのですが」と教授に相談しました。

●小槻 一次審査では、提出された業績リストと研究概要を審査員の先生方が見て、点数をつけて

投票します。そして、高得点をあげた上位数名に審査員の前でプレゼンしてもらい、質疑応答などの結果、再び投票により受賞候補者を選定します。最終決定は学長が行います。

石田さんの場合、同じ研究実績が、平成24年日本眼炎症学会学術奨励賞を授与されていることも大きなポイントになりました。石田さん、プレゼンにはどのような気持ちで臨みましたか？

●石田 審査員の先生方は、医学が専門の方ばかりではないので、いかにわかりやすく説明する



「受賞者はみな、その後、大きく成長している。」

「とても光栄です。今後も頑張らなければ！」

「大学院生研究奨励賞」受賞
石田 わか

社会人を経て、高知大学大学院入学。総合人間自然科学研究科医学専攻博士課程2年。実験的アレルギー性結膜炎、実験的自己免疫性ぶどう膜炎などを研究。「高知が大好きなので、高知で研究を続けたい」というのが夢。

高知大学理事(研究担当)
小槻 日吉三

高知大学文学部卒業。博士(理学)。専門は有機合成化学、高圧有機化学、天然物合成化学などで、「欲しいものだけを作る・人に作れないものを作る・生体機能を越えて作る」が研究上のキャッチフレーズ。

かということに重点を置きました。すごく緊張しました。

受賞は大きな名誉、モチベーションもアップ！

●小槻 受賞の知らせを聞いて、どう思いましたか？

●石田 すごくうれしかったです！素晴らしい業績をあげた方がたくさん応募されていることがわかっていたので、選ばれたのは本当に光栄だと思います。自分の研究が認められたわけですから、今後もさらに頑張らなけれ

ばならないという気持ちになりました。

●小槻 受賞者には奨励費が授与されます。研究に関する用途であれば、どのように使ってもかまいません。しかし、受賞したという名誉のほうが大いかもしれないですね。

●石田 私もそう思います。研究のモチベーションにもなりますので、今後も研究顕彰制度を続けていただけたら、研究者はみな喜ぶと思います。もちろん奨励費もありがたいです。試薬の購入に使わせていただきました。



●小槻 若い時の受賞は、さらに飛躍するための原動力になりました。広報誌やホームページなどでも紹介されますし、どんどんチャンスが広がっていきます。受賞された方はみな、その後の経歴が素晴らしいんですよ。石田さんも一層成長してほしいと思います。

●石田 研究室の教授や准教授はアメリカで経歴を積まれていますので、私もいずれ海外の研究機関で学んでみたいという気持ちを持っています。

「知る喜び」を若い時に味わえば、その後の人生が変わる

●小槻 高知大学では研究顕彰制度のほかに、平成24年度から、卓越した学業成績優秀者に年間授業料を免除する制度も設けました。石田さんも来年、チャンスがありますよ。ところで、海外に行ってみたくないですか？

●石田 海外行きは勉強の1つと考えています。私にとって高知大学での研究が一番の糧ですし、思返してはいいのですが、将来は戻ることができればうれしいですね。私は「知りたい」と強く思う性格で、なぜこのような疾患になるのか、どういうメカニズムなのか、といったことを解明するのが好きなんです。これからは、研究者として進んでいきたいと考えています。

●小槻 高知大学は最先端の知識を学べる場として、研究者が全力で取り組める環境を整えています。研究を通して知る喜びは、カラオケやゲームなどの楽しさとは質が違っていると思います。若い時に本気で向かい合えば、その後の人生が随分変わる。私はこう信じています。そして、そういう場を提供することが、高知大学の使命だと考えています。ぜひ、若い皆さんには高知大学の門を叩いてほしいですね。

